

アドベンチャー
ADV

ガールズライダー♡

PICK UP!!

世界にはバイクで旅をする女子ライダーがたくさんいます。そんな彼女たちに焦点を当て、色々聞いてみます!

PHOTO & TEXT / jasmine T Cardwell



jasmine T Cardwell

2006年にカリフォルニア州はサンディエゴに単身渡米。旦那マイケルとの出合いをきっかけに2011年バイクの免許を取得し、アドベンチャー・ライダーに急変身。北米横断にチャレンジするも2回のバイク事故を経て、現在はアドベンチャー・ライダー (Driver + Rider) として四輪でヨーロッパツアー中。世界の女性ADVライダー事情をお届けしたいと思います。
WEB ▶ <http://www.samurai-rider.com>
Instagram ▶ [advriderjasmine](https://www.instagram.com/advriderjasmine)

アドベンチャー
ライディングって?



何が起るかわからない、どんな出合いがあるかわからない…。どんなに険しい山道も、砂漠も、森の中も、川の中も、大都会も、秘境の地も、如何なる天候であろうが、如何なるコンディションであろうが、Two-wheeler (自動二輪) に必要最低限かつ必要最大限の夢と希望を詰め込んで、世界中をどこまでもひた走る…。それがアドベンチャー・ライダー

アメリカからドイツへ!
夫婦でツアー中の女性

こんにちは! Adventure (以下A DV) Rider(Jasmine)です。今回も引き続き昨年ドイツで開催されたBMW Motorrad Days 2016(以下BMWイベント)と出会って、インタビュすることが出来た、女性ライダーを紹介したいと思います。

BMWイベント内の駐輪場で一際目立っていた、アメリカのライセンスプレートをつけたA DV仕様のバイク2台! ワクワクしながら主人のマイケルとバイクの持ち主を待ち伏せしました。そしてそこに現れた夫婦ライダーに声をかけ、インタビュをお願いしました。なんと彼らはアメリカよりバイクを輸送して、ヨーロッパツアーを満喫していたA DV夫婦ライダーだったのです!

久しぶりに同郷人(私の現在の居住地はアメリカのため)に出会えたこととても嬉しくて、マイケルも私も話が止まりませんでした!



Grossglocknerというオーストリアで一番標高の高い山頂にて チェコにて

H:でも、僕たちの所有しているバイクはヤマハ。日本のバイクだから、日本に行かなきゃね。
P:そうね、日本に行くべきだわ! そうよ、いつか絶対に!(一同穏やかにほほ笑む)

j:現在、日本という国や国民、文化に対して、どのような感覚をお持ちですか?

P:そうね、唯一私が知り得ることは、日本人はとても謙虚で、お互いをとても尊敬し合ひ、誠実で、よそ者を快く迎えて入れてくれる、そんな国民だと思うわ。食に関しては、私達と全く違う不思議なモノを食べているわよね。(私、爆笑) 2人で日本に行くのは少し戸惑いがあるけど、貴方たちと一緒に是非行ってみたいし、ライディングしてみたいわ。
M:3ヶ月間日本に滞在した2009年の事だけれど、僕を感じる日本という国は、難しくはないんだけど、戸惑いはあったね。字が読めないからね。東京など都会では英語も通じるし、標識も英語で書かれているけど、田舎に行くとうまく通じなくなる。
P:イタリアもそうだったわ!

M:綺麗だし、洗練されているし、メンテナンスも行き届いているし、とても簡単に状況は把握できる。そして、僕らはどう見ても観光者だって分かってもらえてるから、人々は本当に親切にしてくれるよ。ただし、日本はイギリスと同様、左側通行だけれどね!
H:Oh~NO~~~~LOL!!! (笑)
M:オーストラリアも、ニュージーランドも。
P:サウスアフリカもそうだわ! 交差点だけは左側通行だと考えて通過しないと怖いけどね。
j:みんな、日本に行っても大丈夫さうだね。その日が来ることを楽しみにしてるよ。

Awayで出会えたアメリカン・ライダー夫妻。同じ時間を、同じ目的を持った者同士が国外で集い、一期一会も旅の醍醐味ですが、インターネットの目覚ましい普及で、ひと時の出会いから、将来どんな友情ドラマが生まれるかもわからない世界。旅を通して出会える人々はかけがえのない存在になる可能性を秘めています。現在、パティとジョンは一旦アメリカに戻りライディングを続けていますが、SNSを通じて交流を深めています。そして今年の夏には北欧のライディングを検討中という事で、更にADVの範囲を広げて行かれることですよ!

P:片足よ。
M:その通り。完全に停車する時、右足は完全にブレーキを踏んで、右手でブレーキを、左足を地面について停車すると習うよね。でも現状は、男性を含む多くのライダーが、両足を地面につけて停車してる。絶対に両足を下ろすべきではないんだけどね。バイクはバランスが大事で、両足を地面につけたからといって支えられる重さではないから。
P:それは充分に分かっていても、実際は凄く難しいのよね。
M:その気持ちも分かる。多くのライダーがきちんと講習やクラスで、その重要さを習っていないからね。何度も言うけれど、バランスさえきちんと取れば、指一本でバイクを支えることだって可能なんだ。
P:女性と男性は違うということを前提に、男性は瞬時にモンスターのような大きなバイクを支える事が出来たとしても、女性はそれだけの身体的な余裕があるとは思えないわ。個人的な意見としては、大型バイクになればなるほど、両足をつけて停車をする方がいいと思ってしまわう。

j:分かるよ〜、パティ! だから女性ライダーの講師に習いたい! マイケルがどんなに親身になってたくさん事を教えてくれても、私には理解難かったの。男性と女性は筋肉の付き方も、メンタルも、身体的な能力も違うからね。
M:う〜ん、再度言うけど、バランスの問題。僕の意見としては、男性より女性の方がバランス感覚に長けていると思う…。(マイケル、かなり熱くバランスについて語っていました。最もですけどね。)
P:そういえば、今回の試乗トリアルのコーチが小柄な女性インストラクターで、1200GSを軽々と乗りこなしていたわ。一日中だって彼女のダートライディングを見ていたらそうよ。

j:チャンスがあれば、日本をADVライドしてみたいと思ったことはありませんか?
P:Yes… (少し戸惑いながら) 私達は今まで居心地がいいと思える国でしかライディングをしたことがないから、日本でライディングをしたら多分ガイド付きのツアーがいいから。個人でのライディングは遠慮したいわ。何故なら、ドイツもオーストリアもどうにか理解できたけど、日本は文化が違うすぎるし、私たちは日本の事を知らなすぎると思うの。

いそうほど大好きなの! あ〜、それから、もう一度ニュー・ファンドランド州にも行きたいわ。

j:バイクに対する貴方の座右の銘は?
P:Brain (Mind) Freedom (無になる)
j:あ〜、それは考えもしなかったわ! 素敵ね。
P:バイクに乗ってる時はバイクに乗ってることだけを考えればいいから、それ以外のことはすべて忘れられるわ。私ね、一人でライディングをするの。ジョンは春と秋に、男友達と山登りに行くの。私はその間にキャンピングギアを荷造りして、ひとりりで山に走りに出かけるの。一泊だけひとりっきりでキャンプをしてね。初めて体験した時に、既

にやみつきになる予感がしたの。日が暮れて来て、ひとりだけの世界に浸り、夜になるとコヨーテの鳴き声が聞こえて。少し怖くなった時もあったけど、ひとりでモーターに泊まるのと比べると、キャンプの方がよほど安全だと思えたわ。モーターだと、どこの誰だかわからない人達が泊まっているけど、キャンプと同じ目的で来ている人の集合場所みたいなものだから、すぐに仲良くなる助け合いの心が生まれるの。女性一人でキャンプをすることは、かなりのチャレンジだと思うけど、jasmineももしまいたバイクに乗る機会が来たら是非チャレンジしてみたい。きっと私の気持ちを分かってくれと思うわ。
P:そうよ。ガイド付きのバイクツアーの旅だね。
j:将来、ADVライドが一番訪れてみたい国はどこ?
P:もう一度アフリカに行きたいわ。
j:特にここに行きたいなあ、という国はある?
P:ボツワナね! とにかく現地の人々に恋してしま

j:分かったわ! 私も何かに常にチャレンジしていきたい気持ちがあるから、機会があれば是非チャレンジしてみたいなあ!

j:女性ADVライダーに対してどんな意見を持っていますか?
P:女性ADVライダーは少なすぎる。私はADVライドが出来る時間があることを凄くラッキーだと思っている。全ての女性がADVライドにチャレンジ出来たらどんなに素敵かと思うわ。でも時間がないもの。だから私は本当にラッキーだと思うの。

j:そうね。ADVライダーは時間は勿論、最低限のお金も必要だし、柔軟で友好的な人格も必要だと思うから。では女性ライダーがもっとバイクに興味を持ち、女性ライダー人口が増えていく事に対してどのような見解がありますか?
P:免許を取る時にライディングのコースやクラスがあればいいかもね。それから、バイクメーカーがもっと女性に乗りやすいバイクを作つたらいいのに、とも感じるわ。ジャケットやアクセサリーも含めてね。
M:パティ、君がライディング・クラスを受講した時の先生を覚えています?
P:覚えてるわ。
M:その時、バイクで一旦停車する時、何本の足を地面につけて停車するべきと教えてくれた??



Patti Heveron (パティ・ヘヴェロン) 60代 / ニューヨーク州、アメリカ合衆国出身 ▶現在の彼女のバイク: BMW 1200GS

P:デイトナ・バイク・ウィーク (フロリダ州で毎年開催されるバイクの集会) には、スズキの車に乗っている女性ライダー達を凄く見たわ。私もデイトナに行くためだけに、ピンクの車が欲しいの。見た目がとてつもなくカッコいいんだもの! ニューヨーク州で私の周りの女性ライダーは、ヤマハかハーレーのクルーザータイプに乗っているわね。昔は大型のバイクに女性なんか乗るの? と自分自身でも思っていたし、そんな持ち上げられないじゃない、と言われていたけど、私は持ち上げる必要なんてないと思ったの。ただ乗るだけよ、ってね。当時の私では考えもしなかった、その大型のバイクに悠悠自適に現在は乗っているわ。

j:今まで訪れた場所で、特に気に入った所は?
P:カナダのノヴァ・スコシア州と、ニュー・ファンドランド州はとても美しいわ。それからグレート・スモーキーマウンテン (ノースカロライナ州)、アラスカ州ね。特にアラスカ州までに続く道路が好きよ。それから、ワイオミング州、モンタナ州のシーニック (景観) 道路は特にお気に入りかしら。あ〜、それから、サウスダコタ州のセオドア・ルーズベルト国立公園!

j&M:僕たちもお気に入り場所! ちょうど私達が訪れたときはオフシーズンで、キャンプサイトが貸切状態だったんだ! 珍しい野生の馬と、何百頭というバッファローが群れていて感動したよ。
j:何か国、またはアメリカの何州をバイクで訪れたことがありますか?
P:アメリカは49州、ハワイ以外ね。それからカナダ、ナミビア、ボツワナ、ジンバブエ、ドイツ、イタリア、オーストリア、フランス、チェコ、リヒテンシュタイン、ホルトガル、そしてこの後訪れる国ね。まだ増加中よ!

j:素敵! アフリカでもライディングをしたんだね!
M:アフリカはグループツアーで行ったの?
P:そうよ。ガイド付きのバイクツアーの旅だね。

j:将来、ADVライドが一番訪れてみたい国はどこ?
P:もう一度アフリカに行きたいわ。
j:特にここに行きたいなあ、という国はある?
P:ボツワナね! とにかく現地の人々に恋してしま

j:パティ、ジョン、よろしくお願ひします。ではパティ、バイクに乗り出してからどのくらい?
P:13年くらいね。

j:なぜバイクの免許を取得しようと思ったの?
P:ジョンとのタンデムで後ろにバイクに乗っていると、いつもジョンが「今の見た? 今の見た??」と聞いてくるの。でも、私はジョンのヘルメットで前方が遮られて見られなくて。身体を傾けて前方の景色を見たとき、凄くいいなあと思って。それが免許を取得しようと思った一番の理由よ。2つ目の理由をあげるとしたら、バイクのラリーに行った時にいつも「あれに乗ってみたいくないの?」と自分に問いかけていて、自分のバイクが欲しいんだわって確信したの。ヤマハの中古バイクを購入して、実際に「さあ乗ってみよう」という状況で、実は「これは無理かも」と思ってしまったの。ジョンはそれを察していたけど、私が乗馬をしていたのを知ってるから、その感覚できっとすぐに乗れるようになると思ってみたい。そしていざ乗って見たらジョンの思った通り、す〜と乗りこなせたわ。

j:素敵! 乗馬とバイクに乗ることの共通点はやはりあるのかしら?
P:バイクは行きたい方向を見るでしょ、乗馬も一緒よ。乗馬はフェンスを乗り越える乗馬スタイルも体験していたわ。
j:じゃあ、バイクでジャンプするって事も踏まえて怖さは無かったの?
P:No! 大丈夫だったわ。

j:パティにとって、4本足か2輪かの違いなだけだったのね!
P:バイクがこんなに楽しいなんてね! でも、当初はまあ乗ってみようくらいの気持ちだったけど、今では3台所有しているわ。
j:え〜! 凄い! 今は何に乗っているの?
P:一番最初に買ったヤマハのビラゴ、ジョンはそのバイクをローズと名付けて呼んでいるから手放さなくなっちゃったの! それからヤマハ FZ1というスポーツバイク、これに乗っている自分はおばあちゃんなんて自分でも思わない気持ちにさせてくれるの。孫がいるおばあちゃんには見えないでしょ? そして一緒にヨーロッパにきたBMW1200GSよ。

j&M:Wow、見えない、見えない! 凄くカッコいい!
j:アメリカでは、どんな種類のバイクが最も女性に人気だと思いますか? パティはニューヨーク州出身だから、東海岸の状況を教えてくれる?



おばあちゃんには絶対に見えないライディングショット!